

IV-21

社会資本整備と幸福感的関連性に関する研究

秋田大学 学生会員 ○高橋 誠
秋田大学 正会員 浜岡 秀勝
秋田大学 フェロー 清水 浩志郎

1. はじめに

戦後、食料の充実を求める時代から物質的な充実を求める時代へ、そして心の豊かさを求める時代へというように時代変化とともに、生活にも収入・生活環境・余暇環境という多岐にわたる変化が起きたと考えられる。これらの生活の変化には様々な要因が考えられるが、社会資本整備が少なからず影響していると思われる。また、時代変化、生活の変化とともに幸福感にも変化が起きたと思われる。そこで、現在までに様々な計画で社会資本整備が整備されてきたが、整備対象地域の住民は本当に豊かさを得たか把握するために、両者の関連性を分析する。

2. 本研究の位置づけ

現在までに行われた研究では、ハッピネス概念規定に基づき、ハッピネスの尺度作成をすることを目的とした高齢者の幸福感構造に関する研究¹⁾、社会資本整備に対する欲求特性及び地域形態に着目した住民ニーズについての研究²⁾がある。本研究では、社会資本整備と幸福感に着目し、現在の幸福感的特性及び時代変化により幸福感的にどのような変化が起こるか調査した。

3. 本研究の調査概要について

本研究では、現在の幸福感的においてどのような項目が重要とされているか、また社会資本整備の整備状況の変化及び時代変化からみて、幸福感的を得るために重要とされる項目の変化について調査した。調査概要については表1、調査項目については表2に示す。回答方法は、表2の評価項目について現在、幸福感的で何を重視しているか、また過去4時点（昭和30年頃、昭和40年頃、昭和50年頃、昭和60年頃）と現在

表1 調査概要

調査日	2001年12月
対象者	秋田湾地区住人
データ数	110人 (男51%、女49%)
調査方法	家庭訪問での配布回収 公民館での配布回収
回収率	64%

表2 調査項目

睡眠・食事
仕事・収入・消費
居住・環境
安全(交通)
健康
生活保障
家族
友人・仲間
地域社会
余暇・趣味
教育・文化
勤労の質

を比較してどちらにおいて重要であるかを5段階で回答する方法をとった。また、アンケート回答者110人で、その平均年齢が65.93歳であることが、主な属性の特徴である。

4. 現在の幸福感的について

ここでは、現在幸福感的を得るためにどのような項目が重要とされているか、また社会基盤整備関連項目がどの程度影響したか分析する。分析する際に、各項目に対して表3に示す得点化を行い、グループ分けをした。その結果は、図1に示すようであり、最大得点の70%、50%を基準として3つのグループに分けた。第1グループは、「睡眠・食事」、「居住・環境」、「仕事・収入・消費」、「生活保障」、「健康」の項目となった。これらはマズローの欲求階層説では、第一段階「生理的欲求」、第二段階「安全欲求」に相当する項目群である。第2グループは、「居住・環境」、「仕事・収入・消費」、「家族」、「友人・仲間」、「地域社会」の項目となった。これらは、第二段階「安全欲求」、第三段階「愛情欲求」に相当する項目群である。第3グループは、「余暇・環境」、「教育・文化」、「勤労の質」の項目と

表3 得点化の指標

回答種類	得点
重視していない	-3点
やや重視していない	-1点
どちらともいえない	0点
やや重視している	1点
重視している	3点

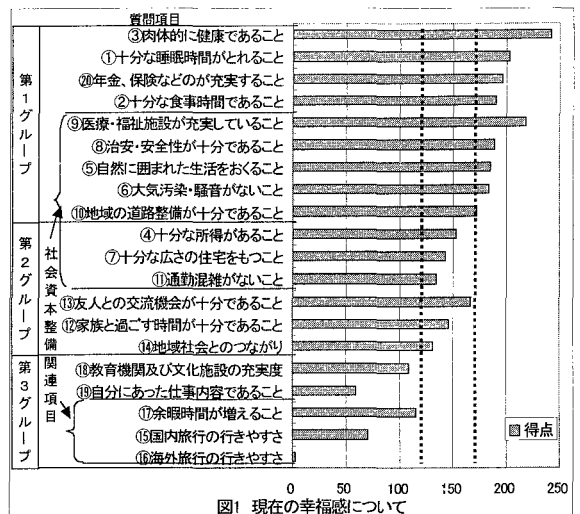
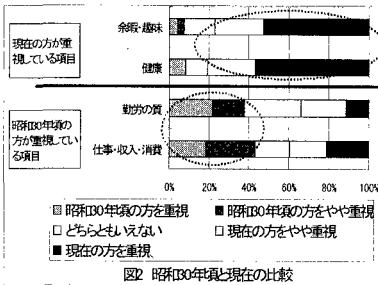


図1 現在の幸福感的について

なった。これらは、第五段階“自己実現欲求”に相当する項目群である。幸福感を得るために重要とする項目に段階的順位があり、マズローの欲求階層説と同じ結果になった。つまり、欲求をみたくことが幸福感を得ることにとって重要であると考えられる。また社会資本整備関連項目は、図1④～⑪、⑮～⑰が該当していて、これらの項目は第1・2グループであり、幸福感を得るための得点が高いことから社会資本整備は、幸福感を得るために重要であると考えられる。

5. 時代変化に伴う幸福感の変化について

ここでは現在の幸福感を踏まえて、過去4時点の変化について、アンケート結果を用いて住民意識変化から分析した。昭和30年頃と現在を比較した場合どちらにおいて重要であるか示したものが、図2である。「仕事・収入・消費」、「勤労の質」の項目をみると、昭和30年頃の方が重要であり、反対に「健康」、「余暇・趣味」といった項目は、現在にお



いての方が重要であることがうかがえる。次に、アンケート結果を表3と同様に得点化し、過去4時点の各項目についての変化を図3に示した。図3は現在と過去4時点と比較し、重要度がどのように変化したかを示すものである。この変化は過去から現在に向かうにつれて、1)重要度が高くなるグループ、2)低くなるグループ、3)4時点で変化のないグループの3つに分けられる。ここでは、変化のある項目について考察する。図3の②「仕事・収入・消費」、⑪「勤労の質」の項目を見ると過去4時点ともに他の項目より幸福感を得るために重要であるという結果が得られた。また、時代変化とともに重要度は低く変化している。そして、③「健康」、⑤「安全(交通)」、⑧「余暇・趣味」、⑫「生活保障」の項目は、現在の方についての得点が高く過去4時点では重要とされていなかった項目とかがえる。また、⑧「余暇・趣味」は現在に近づくにつれて重要とされるようになってきた。つまり②「仕事・収入・消費」の項目の重要度が低くなり、⑧「余暇・趣味」の重要度が高まったこと

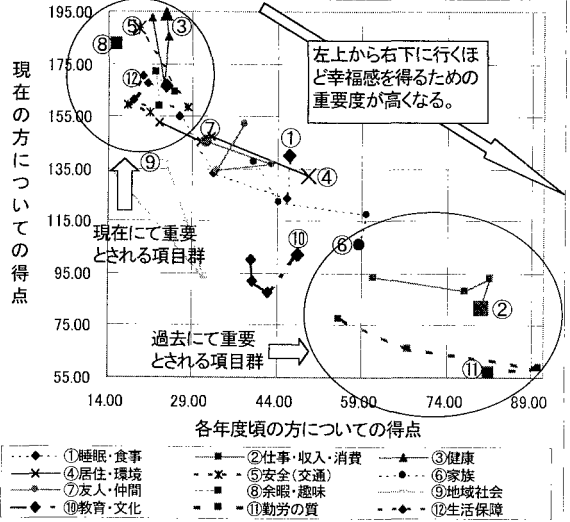


図3 時代変化に伴う各項目の得点変化

から、過去4時点では経済的な豊かさの方が優先されてきたが、時代変化とともに心の豊かさが重要視されるようになってきたことがうかがえる。

6. まとめ

現在において、「睡眠・食事」、「居住・環境」の項目は、幸福感を得るための重要度が高く、「余暇・趣味」の重要度が低い。これより、幸福感はマズローの欲求段階と合致していることがうかがえる。また、過去4時点での変化からみると、「仕事・収入・消費」の重要度が低く変化してきて、「余暇・趣味」の重要度が高く変化してきて。これより、時代変化とともに経済的な豊かさ、社会資本整備の充実から心の豊かさへ重要度が少しずつ移行してきたと考えられる。本研究では、時代変化から年度ごとの変化を調査したが、秋田県において計画、施策により、所得、人口など様々な変化が起こったと考えられ、この方向からの調査もしている。今後は、都市の発展形態によって、幸福感に影響があると考えられ、都市がどのように発展してきたかという視点で、研究を進める必要があると考える。

(参考文献)

- 1) 植田智、吉森護、有倉巳幸：「ハピネスに関する心理学的研究(2)」、広島大学教育学部紀要
- 2) 青木俊明、栗原真行、山下武宣：「社会資本整備に対する住民ニーズの把握」、平成12年都市計画論文集